



# 作る人と買う人との交流を大切に 広い視野を持った企業的経営へ

野菜経営 田主丸町 田中 圭介さん (29歳)

## 広い視野と勘に頼らない計画的な経営

田中圭介さんは、幼い頃から家業の農業を手伝い、大学卒業後すぐに就農。大学では農業分野以外の友人を作るために経済学部に進みました。「異業種から学ぶことは多い。農業との連携も模索できる。」と、現在も異業種の人たちとの交流を大切にしています。

現在、米とリーフレタス、キャベツ、白菜などの露地野菜を生産している圭介さんは、「農業は楽しい。でも、豊作で価格が下落した時など、せつかく作った野菜を捨てなければならぬ時が辛い。」と言います。近年の異常気象や温暖化のため、毎年同じように作業をしているのは、上手く農産物は作れない。勘に頼らず、情報を集め、分析し、生産スケジュールを立てています。「効率化やマニュアル化を進め企業的な経営を行っていききたい。」と将来を展望しています。

## 農業は地域が基盤、地域貢献は当たり前

現在、全国4Hクラブの副会長を務めているため、会議などで家を留守にすることが多い圭介さん。しかし、父の隆利さんは快く行かせてくれます。田主丸町の若手農業者のリーダーとして、地域貢献や農業イベントなどを企画するなど、活発に活動を行っています。

## 将来へのステップ

圭介さんは、「作る人と買う人の交流の場を作ることが夢。農業への自分の思いを伝えた。」

「まずは法人化して、物流まで担う会社を作る。次のステップとして、飲食店などに展開する。」と強い眼差しで将来の夢を語ってくれました。

